

焼けの強弱

【木材類】

①木材の変化

- ・炭化面が凹凸の多い荒れた状態になるほど焼けが強い。
- ・炭化模様を形成している溝の幅が広くなるほど焼けが強い。
- ・炭化模様を形成している溝の深さが深くなるほど焼けが強い。

②剥離

- ・物が燃えて剥離した場合は、剥離箇所が多くなり、剥離部分が深く大きくなる。
個々の面積が比較的小さく、剥離面が荒くギザギザしており、剥離箇所が散在的である。
- ・注水によって剥離した場合は、剥離が比較的広く平坦でつやがある。

③焼失(灰化)

(1)一部焼失

- ・部分的な焼け細り、全体的な焼け細り・焼け切れ・焼け抜けがある。

(2)大半焼失

- ・木材が炭化して焼け細り、焼け切れ、焼け抜けて、大半が焼失した状態である。
- ・残存部分が少ない際、残存部分を見ることで、燃焼前の状態を想定し、焼けの強弱を判別する。

(3)完全焼失

- ・木材が完全に焼失した状態。
- ・焼失した物の形・質を考察して、物が燃える状況の手がかりとする。

【金属類】

①変色

- ・焼けが強いほど赤色から青色に変化し、最後に白色になる。

②湾曲

- ・熱を受けて膨張し、それぞれの金属の固有の温度に達すると軟化し、湾曲する。

③融解

- ・それぞれの金属の固有の温度に達すると融解する。

【コンクリート・モルタル・タイル・煉瓦・石類】

①変色

- ・焼けが強いほど白色になる。

②剥離

- ・自然石は焼けの強弱を明確に示す。
- ・タイルはその構造から焼けの強弱が判明しにくい。
- ・熱を受ける前からすでに剥がれていることもある。

【土癖・漆喰壁類】

- ・水・その他の影響を受けやすく、崩れがちであるため、焼けの強弱は判別しにくい。

【塗料類】

①変色

- ・変色・すすを見る機会が多い。

②発泡

- ・熱を受けて泡立つような機会が多い。

③焼失

- ・薄い塗膜状になっているので、比較的焼失し易い。

焼けの強弱

【プラスチック類】

①軟化

- ・熱を受けて軟化し始めると、荷重があれば急速にその形が崩れ、あるいは抜け落ちるので、主として自重の形の崩れで焼けを見る。

②融解

- ・溶けて垂れ下がるものが多い。

③焼失

- ・可燃性のものが融解状態になると、分解ガスを発生し、着火して焼失する。